

生きて腸まで届く「植物乳酸菌」を含む乳酸菌飲料が 粘膜免疫「IgA抗体」を増やす

野村乳業株式会社(本社:広島県安芸郡府中町、代表取締役社長:野村 光男)は、「ウィズ・コロナ時代」の健康管理に重要な「免疫」に関する試験・調査を行いました。生きて腸まで届く植物乳酸菌を含む乳酸菌飲料を継続摂取することで、粘膜免疫「IgA(免疫グロブリンA)抗体」が増加するという調査結果が出たことをお知らせいたします。



生きて腸まで届く植物乳酸菌を含む乳酸菌飲料は、
唾液中のs-IgA濃度が**1.5倍**以上となった。

調査研究の方法

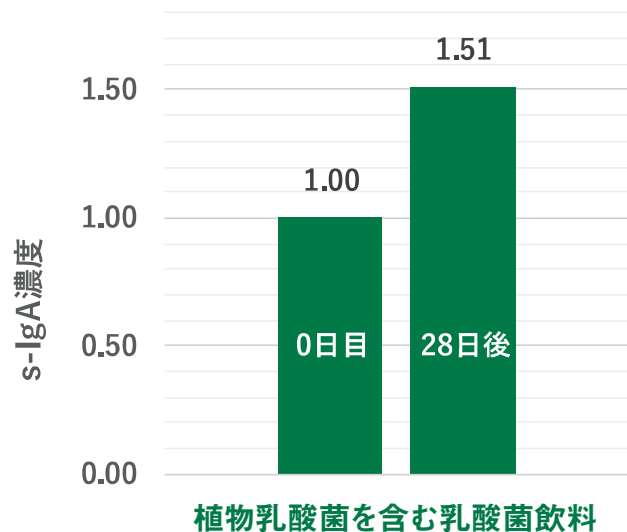
40～70代の健康な男女14名に1日100mlの乳酸菌を含む食品を28日間摂取していただき、摂取開始前と28日後に採取した唾液に含まれるs-IgA量の試験結果を調査いたしました。

摂取前(0日目)を1とした 相対値での比較

試験・調査によって得られた結果について、摂取前(0日目)を1とした相対値でs-IgA濃度の摂取前と摂取後(28日後)の比較を行ったところ、結果は下図のようになりました。

s-IgA濃度比較

今回の結果から生きて腸まで届く植物乳酸菌を含む乳酸菌飲料は、唾液中の粘膜免疫「IgA抗体」を増加させる可能性が示唆された。



試験・調査の背景と目的

新型コロナの感染拡大は、消費者の健康志向をさらに刺激することになり、感染症に対して免疫力を高めるとされるヨーグルトや乳酸菌飲料をはじめとする発酵食品への関心を急速に高めています。

しかし、その科学的な裏付け(エビデンス)は十分なものとは言えません。「免疫」とは文字通り「病気にかからない」ための体のしくみです。体の最前線である口や鼻、腸粘膜で活躍している免疫物質に「IgA(免疫グロブリンA)抗体」があります。IgA抗体は外から体内に侵入しようとする敵(ウイルスや細菌)を包んで排除してくれます。IgA抗体はとくに母乳に多く含まれ、生まれたばかりの赤ちゃんの健康を守ることで知られていますが、唾液や鼻水にも多く含まれています。「乳酸菌」には経口摂取によりIgA抗体を増やす働き(免疫賦活作用)があることが知られていますが、野村乳業が発酵に使用している植物乳酸菌も免疫賦活作用が示唆されていました。今回、消費者に植物乳酸菌が免疫に与える影響を正しく伝えたく、乳酸菌摂取による唾液中のIgA抗体量の変化を試験・調査を行いました。

【お問い合わせ先】 担当: 野村侑司 | E-mail: y-nomura@nomura-milk.co.jp TEL: 082-281-3341 FAX: 082-284-2264
携帯: 090-8061-7705 (お急ぎの際はこちらへ)